

スポーツ組織におけるビジネスオペレーション：先行研究の検討

スポーツクラブビジネスコース

5013A310-9 岡田 浩志

研究指導教員：間野 義之 教授

1. はじめに

スポーツマネジメント書籍において、スポーツビジネスの実務に関する詳細を取り上げたものは現状多くない。大坪（2011）はスポーツ経営の教科書において「実務についての文献、特に総論が無いに等しい」と指摘している。当研究では、この指摘を仮説とし、スポーツマネジメント書籍についての文献レビューを行った。

2. 先行研究

スポーツマネジメント書籍のレビュー文献としては、日本スポーツマネジメント学会第1回大会の記録文書（藤本，2009；原田，2009；松岡，2009）や、藤本（2006）による『現代スポーツ評論 15』での書評、『スポーツの経営学』（1999）『スポーツ経営学改訂版』（2006）における松岡による記述が参考になる。これらのレビューで把握できるスポーツマネジメント書籍には、大きくは北米の研究の成果をルーツとするもの、国内の学校体育の管理学から発展してきたものが存在する。概ね2008年に出版された「スポーツビジネス叢書」（大修館書店）シリーズまでの出版は振り返りがなされている。この他、マーケティング分野においては大野（2009）によるレビュー論文がある。

3. 研究対象

先行研究をふまえ、2009年以降出版された書籍を対象とすることとした。なお、スポーツ産業論については別途、吉倉（2013）の先行研究があり、対象外とした。また、わが国におけるプロスポーツ組織を主対象に「実務」の把握を行うため、海外のスポーツチーム・リーグや、総合型地域スポーツクラブを対象とした書籍については対象外と

している。

4. 研究方法

スポーツ組織における「実務」把握の基準として、武藤（2006）による「典型的な機能別組織」と、アンゾフ（1965）以降整理が進んだ、組織における意思決定の3階層（トップ・ミドル・ローアのマネジメント3階層）を参照した。またスポーツマネジメント書籍での知見を集約し「ローア・マネジメント」項目を10に、「トップ・マネジメント」項目については、NAPSE-NASSM Joint Task Forceによるスポーツマネジメントのカリキュラム基準（1993）を参照し、10に整理した。これらの基準をもとに2009年以降出版された書籍から、「実務」に関する記述を抽出し、「実務の総論不足」について検証を行った。

5. 研究結果

文献レビューの結果、2009年以降のスポーツマネジメント書籍には、1. 「実践・実務」を銘打った書籍、2. 「基礎・入門書・教科書」を謳った書籍、3. 「分野特化型」の書籍という傾向を把握することができた。「実務」を多く取り上げた書籍としては、『実践スポーツビジネスマネジメント』（小寺，2009）、『スポーツ・マネジメント理論と実務』（広瀬，2009）、『プロスポーツ経営の実務』（大坪，2011）が挙げられる。

6. 考察

スポーツ組織の「実務」に関する記述については、メディア関連業務やライセンス事業を除いて「ケース・スタディ」が中心であり、総論・一般論としてローア・マネジメントを取り上げた書籍

は、現状スポーツマネジメント領域に存在しないことが確認された。特にチケット・マーケティング・マーチャンダイジング・チームに関するオペレーションといった領域の方法論に関する記述が少ないことが把握できた。

7. おわりに

研究の課題として、国内文献のレビューにとどまった点が挙げられる。しかしながら、国内のスポーツマネジメント書籍において理論的な集約はある程度なされてきており、逆に実務分野については、これからの集約が待たれる状況であることが明らかとなった。今後スポーツマネジメント研究において、ローア・マネジメント、オペレーション分野に対する研究がさかんになることを大いに期待したい。

【文献】（要旨に関係する分のみ記載）

藤本淳也（2006）スポーツマネジメントに関する書籍：現代スポーツ評論 第15号。創文企画：東京。

藤本淳也（2009）日本スポーツマネジメント学会第1回大会 シンポジウム1 スポーツマネジメント教育の現状と課題：体育・スポーツ系の学部・学科の課題と現状：スポーツマネジメント研究 第1巻第1号。創文企画：東京。

原田宗彦（2009）日本スポーツマネジメント学会第1回大会 基調講演 スポーツマネジメントを科学する：スポーツマネジメント研究 第1巻第1号。創文企画：東京。

H. I. アンゾフ著・広田寿亮訳（1965）企業戦略論。学校法人産業能率大学出版部：東京。

広瀬一郎（2009）スポーツ・マネジメント理論と実務。東洋経済新報社：東京。

岸川善光編著（2012）スポーツビジネス特論。学文社：東京。

小寺昇二（2009）実践スポーツビジネスマネジメント：劇的に収益力を高めるターンアラウンドモデル。日本経済新聞出版社：東京。

松岡宏高（1999）スポーツマネジメントの教育・研究領域-北米の動向-。池田勝・守能信次（編）講座・スポーツの社会科学3 スポーツの経営学。杏林書院：東京。

松岡宏高（2006）スポーツ経営学研究の国際比較。山下秋二・中西純司・畑攻・富田幸博（編）スポーツ経営学 改訂版。大修館書店：東京。

松岡宏高（2009）日本スポーツマネジメント学会第1回大会 シンポジウム1 スポーツマネジメント教育の現状と課題：世界のスポーツマネジメントカリキュラムと全国調査の結果：スポーツマネジメント研究 第1巻第1号。創文企画：東京。

松岡宏高（2010）スポーツマネジメントの概念の再検討：スポーツマネジメント研究 第2巻第1号。創文企画：東京。

武藤泰明（2006）プロスポーツクラブのマネジメント：戦略の策定から実行まで。東洋経済新報社：東京。

NASPE-NASSM Joint Task Force (1993) Standard for Curriculum and Voluntary Accreditation of Sport Management Education Programs. Journal of Sport Management, 7 : pp.159-170.

大野貴司（2009）スポーツマーケティングに関する基礎的考察：先行研究の検討と研究展望：人文学部研究論集 第21号。中部大学人文学部。：pp.1-23

大坪正則編著（2011）プロスポーツ経営の実務：収入増大の理論と実践。創文企画：東京。

吉倉秀和（2013）スポーツ学の10年：スポーツビジネス研究領域の立場から。びわこ成蹊スポーツ大学研究紀要 第10号：pp.49-54。